

# 学研都市

国家プロジェクト・関西文化学術研究都市がサードステージに入っている。京都、大阪、奈良の京阪奈丘陵を背景に、各種の先進施設や住宅などが整備され住み、憩い、働き、学ぶの多機能複合タウンを実現。昨年開業した近鉄「けいはんな線」も、壮大な街づくりに貢献する。豊かな自然と人との調和をめざす21世紀のモデル都市は、新たな素顔をみせる。

1994年に都市全体の街開きが行われて以来、住宅や各種施設などの建設が急ピッチ。また昨年3月には、近鉄けいはんな線（生駒駅～学研奈良登美ヶ丘駅間）が開業、大阪の中心部・本町まで30分台で結ばれるなど、ぐんと便利に。

## 多機能複合タウン

## 住み、憩い、働き、学ぶ

### 住宅、施設の建設急ピッチ 人口23万人超える

関西文化学術研究都市は、総面積約1万5000畝。うち文化学術地区は約3600畝で、都市再生機構が約1800畝を開発。全体が12のクラスターで構成され、21世紀にふさわしい多機能都市づくりが順調に進められている。

学研都市内の人口推移をみると、86年の開発時から約4倍の23万人を超えた。学研都市は、①文化の創造と交流②新しい学術研究の推進と新産業の創出③21世紀のモデル都市を掲げた大規模な多機能複合タウン。豊かな自然環境を背景に住み、憩い、働き、学ぶの4拍子揃った快適な暮らしを提案する。

学術・研究に従事する研究者も増加、2006年には外国人も含めて約5700人が勤務。とくに、外国人の増加が顕著だ。学研都市の心臓部が

の原ショッピングセンターがオープン、駅前開発に弾みをつけた。全体開発のサードステージとして、街づくりに拍車を掛けているのが木津地区。総面積約740畝と最大級で、97年の街開き以来、南地区から順次開発が進められている。

とくに「ハーモニシティ木津」は、総面積約284畝。豊かな緑と人との調和を軸に、快適なふるさと志向の街並みを演出。万葉の趣を強調しながら個性的なゆとり空間を確保した。順調に宅地募集が行われており、ゆったり感覚の土地スベイスが好評だ。

このほか学研都市内では、日本原子力研究開発機構関西科学研究所、学研都市の心臓部が

の原ショッピングセンターがオープン、駅前開発に弾みをつけた。全体開発のサードステージとして、街づくりに拍車を掛けているのが木津地区。総面積約740畝と最大級で、97年の街開き以来、南地区から順次開発が進められている。



今年5月にオープンしたイオン高の原ショッピングセンター

# 成熟期迎えた